



## 「学級づくりセミナー2023」

8月18日(金)に若柳総合文化センターを会場に「学級づくりセミナー2023」として、明治大学教授 諸富祥彦先生から「学校に行けない『からだ』～不登校体験の本質と予防・対応～」という演題でご講演いただきました。

講演では、リレーション(心と心のふれあい)の実際を体験し合う中で、その大切さを学んだり、援助希求できる関係を築く大切さについて感じ取ったりしたこと。また、不登校の予防・対応で一貫して着目すべきは「気持ち」ではなく「からだ」であること。初期・中期・長期の対応について、特に最大の予防は「からだの変容」が生じる前、「連続欠席3日まで」に対応(家庭訪問)すること。また、夏季休業明けまでのこの5日間の不登校予防として①夜9時までに寝ること(昼寝をしない)②午前中から外出させることが大切であること。さらに、月1回の「SOSシート」で不登校の二次予防を行うことなど、たくさんの貴重な示唆をいただきました。会場は、常に諸富先生の軽妙で熱い語りに聞き入ったり、リレーションの大切さを体験を通して学び合ったりしたこともあり、時間があっという間に過ぎました。講演会の感想は下記をご覧ください。



### 【講演会の感想】

- ・「不登校になるきっかけと原因は別である」という言葉を聞いて、学校に行けない体になってしまう前に働きかけることが必要だということが分かりました。
- ・リレーションとは何かが、身を持って習得できたように思います。不登校児童、または職員室の雰囲気作りに生かしていきたいと感じました。
- ・子供とのリレーション作りが大切だとわかった。日頃、自分が聞きたいことを話題にするものの、子供たちが聴いて欲しいようなことを質問していないことを実感した。休み明けに転校生を迎え入れるので、全員でのエンカウンターを取り入れながら、子供同士や担任との関係づくりを意識的に行っていきたい。
- ・この講演で一番心に残ったことは、援助希求できる関係づくりの大切さです。子供たちと接する時に、何気ない会話などを通して信頼関係を築いていけたらと思っていますが、それが全ての子に対してできていたかどうか反省する機会をいただきました。関わりを好む子もいれば、そうでない子もいて、関わりに課題を抱える子もいるなかで、全ての子に対応していけるように努力していきたいと思いました。

### 【講演会の感想】

- ・話を聞いてもらえる安心感を実感することができました。来週からの学校生活の中で、スマイルと声掛けをまずやってみたいと思います。
- ・プロの教育者として必要な資質・能力として、相手とそこそこの関係をすぐに作れることが大切であることが分かった。フットワーク・スマイル・声掛けの3つを常に発揮しながら子供と関わり続けていきたいと思った。
- ・不登校児童に対しての具体的な対策がとても参考になった。特にリレーションづくりの場として定期的な教育相談の場を設け、担任以外の教員が実施するというのは効果がありそうだと感じた。
- ・私は養護教諭で、学級等で日常的に子供たちと接することはあまりありませんが、イライラしてしまっている時に接して上手く行った試しがないので、一呼吸置いてから関わることを意識したいと思った。～～。教職員と子供たちにとって安心できる環境づくりとつないでいく役割を果たせるように意識したいと考えた。
- ・不登校の原因は、体の変容だと言うことを聞き納得しました。体が変わってしまう前に生活リズムの崩壊を防ぎたいです。また、不登校のきっかけは、友達・担任との関係悪化であるということから常に教師が前向きで不安感を与えないように気をつけようと思いました。リレーション作りの活動例もたくさん教えていただき、ありがとうございます。
- ・実践を通して楽しく学ぶことができました。「関係づくりのプロ」と自信を持って言えるようになります。
- ・学校に行けない体にならないために、どういった支援や声掛けが有効になるのかが、とても勉強になりました。
- ・不登校児童への具体的な対応の仕方を担任目線だけではなく、学校（チーム）目線でも捉えることができ、大変勉強になりました。
- ・エンカウンター的なことが今こそ必要であり重要であることを実感した。日頃子供たちを見ていると人との関わり方がうまくない子供たちが多いと感じている。まずは、一人一人の子供たちとそこそこの関係を作れるように笑顔で過ごしていきたい。

## 「第2回算数・数学授業づくり研修会」

8月23日（水）に中学校教員を対象に「数学授業づくり研修会」を行いました。講師は、三本木中学校教諭大沼義和先生（学力向上指導員）でした。模擬授業と授業づくりの講話をしていただきました。

模擬授業では、市内の先生方を生徒役にして「1次関数のグラフを特徴をもとにかき、式、表、グラフの関係性をまとめよう」という目標の文言を確認し共有させた上で、6つの一次関数をグラフにかかせ互いの学び合いで解決に向かう展開でした。

先生方からは「式、表、グラフの関係性をどのように考えさせるのか」「評価やまとめの在り方」について意見が出るなど、よりよい授業づくりに向け意見が交わされました。

事後感想には、「多くの視点に気付く機会になった」「授業のポイント、学び合いの仕方や意味について参考になった」「分からない生徒の気持ちを体験することができた」「教え合いと学び合いの違いを学んだ」「思考スキルの重要性を学んだ」などがありました。

